

現代女性にとってのOCとLEP

「低用量エストロゲン・プロゲステン配合薬」と



OCとLEPの違い

OC (Oral Contraceptives) は、女性が主体的に避妊できる避妊薬として1999年に発売され、女性のQOL向上に貢献してきました。

また、OCは避妊効果以外に、月経痛改善、月経量減少、月経前緊張症/月経前気分不快障害の症状改善、にきび・多毛症改善、卵巣癌・卵巣癌リスク低下などの副次的作用があることが知られておりました。

そのため、OCと同じ成分の薬剤が月経困難症の治療薬として2008年、2010年に発売され、避妊薬のOCと区別するためにわが国では月経困難症の治療薬のことをLEP (Low dose Estrogen Progestin) と呼ぶようになりました。

ライフプランとOCによる避妊

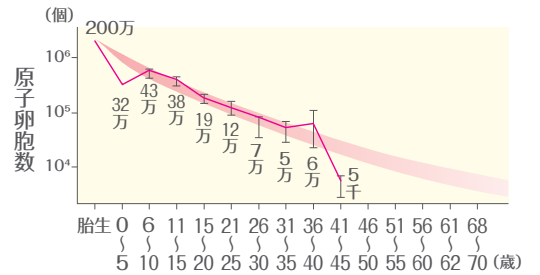
現代女性の生き方は様々です。学業や就職、結婚、出産といったライフイベントをどのように選択するかは個人の考え方で変わります。そのなかでも特に女性にとって大きいライフイベントである出産は、人生を左右する大きな要素とも言えます。

子供を産むか産まないか、産むならいつ産むかを早いうちからしっかり考えることはとても大切なことです。

また、現在、妊娠・出産を希望していない場合には、予期せぬ妊娠を防ぐためにも、避妊についても考えることが重要です。

OCは女性が主体的に選択できる効果の高い避妊法の一つです。ご自身のライフプランの選択肢として、OCによる避妊について婦人科医と相談してみたいはいかがでしょう。

加齢による卵巣における原子卵胞数の減少



Block E. Acta Anat (Basel) 1952; 14(1-2):108-123

月経トラブルとLEP

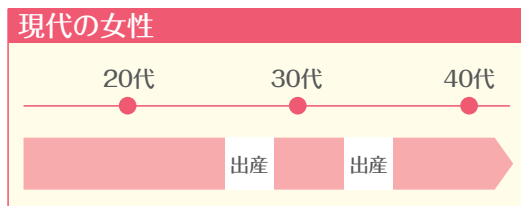
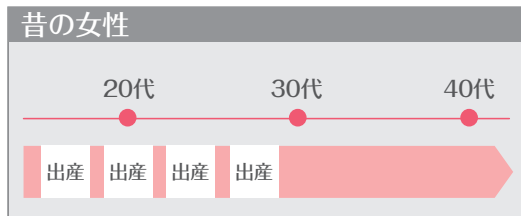
現代女性は、昔の女性に比べて出産回数が減ったため月経のある期間が長くなり、その結果、月経に関するトラブルも増えてきています。

月経には女性ホルモンが関わっており、そのホルモンバランスは身体的・精神的な影響を与えます。

月経トラブルは誰にでもあるものですが、なかには病気が隠れていることもあります。

月経痛などはLEPなどで治療もできますので、心配なことがあれば早めに婦人科で相談し月経と上手に付き合みましょう。

月経のある期間…



カラダの症状

- 頭が痛い・重い
- 肩こり
- 乳房が張る
- お腹が痛い・張る・重い
- 腰が痛い・重い
- 便秘
- 下痢
- むくみ
- 肌荒れ
- 眠い・眠れない
- 吐き気
- 発熱
- ほてり
- 疲れやすい



ココロの症状

- イライラする
- 食欲が増す
- 集中できない
- 無気力
- 気分が落ち込む



現代女性にとってのOCとLEP

OC・LEPは適正に使用されれば女性の健康維持やライフプランに役立つものです。

またOC・LEPは医師の処方が必要な薬剤です。

日頃から婦人科のパートナードクターと相談しながら、あなたに合う選択肢を見つけてください。

OC・LEPの服用を検討されている方へ

● 次の方はOC・LEPが服用できない場合があります。
詳しくは産婦人科の医師に相談してください。

- 原因不明の不正出血のある方
- 妊娠中または妊娠している可能性のある方
- 授乳中の方
- 喫煙されている方
- 激しい頭痛や片頭痛、目がかすむことのある方
- ふくらはぎの痛み、むくみ、突然の息切れ、胸の痛み、激しい頭痛、失神、目のかすみ、舌のもつれなどのある方
- 現在、医師の治療を受けている方
- 今までに入院や手術などを要する大きな病気にかかったことのある方
- 以下の病気と言われたことのある方

・深部静脈血栓 ・肺塞栓症 ・SLE[※] ・抗リン脂質抗体症候群 ・血栓性素因
・脳血管障害 ・冠動脈疾患 ・心臓弁膜症 ・不整脈 ・腎機能障害 ・高血圧
・糖尿病 ・脂質代謝異常（高脂血症） ・肝機能障害、肝腫瘍 ・胆嚢疾患
・子宮頸がん ・子宮体がん ・乳がん ・ポルフィリン症 ・てんかん
・テタニー ・クローン病 ・潰瘍性大腸炎

- 流産・死産を繰り返したことのある方
- 妊娠中に妊娠高血圧症候群、あるいは妊娠中毒症と言われたことのある方
- 現在、お薬やサプリメントなどを服用されている方
- 今までお薬を使用してアレルギー症状（じんましん等）が現れたことのある方
- 過去2週間以内に大きな手術を受けた方、今後4週間以内に手術の予定のある方
- ご家族に血栓症にかかったことのある方
- ご家族に乳がんにかかったことのある方

※SLE：全身性エリトマトーデス

出典：日本産科婦人科学会／日本女性医学学会 低用量経口避妊薬、低用量エストロゲン・プロゲステロン配合薬ガイドライン 2020年度版より改変引用

